

- 1 日 時 平成31年1月20日(木) 2校時
- 2 場 所 呉市立安浦中学校
- 3 学 年 第2学年2組37名(男子19名 女子18名)
- 4 単元名 「身近な地域を見直そう」
- 5 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の中学校社会科「(2) 日本の様々な地域」の「エ身近な地域の調査」を受けて設定している。本単元は、自分たちの地理的事象を学習対象とし、身近な地域に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせることをねらいとしている。

(2) 生徒観

本学級で12月に事前アンケートを行った結果、「安浦町は好きですか」という質問に対して、好き・やや好きと回答した生徒が30人(81.1%)であったのに対し、安浦の特色あるものを問う質問に回答した生徒が、10人(27.5%)であった。その10人についても、「カキが有名である」や、「自然がある町」など、漠然とした内容であり、深い理解に基づいているとはいえない記述が多かった。「個人で考えるより、ペアやグループで話し合いをして考えるほうが学習しやすいと思う」にあてはまる・ややあてはまると回答した生徒が27人(73.0%)であったのに対し、「自分の思いや資料をもとに説明することは、得意ですか」にあてはまる・ややあてはまると回答した生徒5人(13.5%)であった。

この結果から、本学級の生徒は、身近な地域について、具体的に理解できていないことが分かる。また、ペアやグループでの活動に主体的に取り組めてはいるが、資料等に基づき、根拠を明確にして表現することに課題があると言える。

(3) 指導観

本単元の学習では、地形図や統計資料を活用して、安浦町の現状について説明したり、地域の特色について理解したりしたことをもとに、根拠を示しながらグループで意見交換をすることで、自分の考えを深めさせたい。さらに、より魅力ある地域にするためにはどのような課題や改善策が考えられるかについて意見交換をして、まとめさせ、さらに調べたいことについて考えさせたい。

また、安浦中学校区カリキュラムマップに位置付けている、総合的な学習の時間「ふるさと再発見 Part 1」(7年次)で獲得した知識を、本単元に結び付け深化できるよう、関連する導入及び単元構成にしていく。また、本単元で学習した内容が、総合的な学習の時間「ふるさと再発見 Part 2」(8年次)に生かせるようにするなど、教科等間のつながりを意識した展開を行う。

6 単元の目標

- (1) 観察・調査をすることから様々な情報を獲得し、実地調査をする意欲をもつことができる。身近な地域に関心を持ち、社会の一員として意識をもつことができる。進んでフィールドワークを行い、地図にまとめる意欲をもつことができる。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) 読図によって、自分が生活している地域での課題を探し出すことができる。地図から得た情報や観察調査から、身近な地域の特色を見直し、把握することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- (3) 等高線・縮図・地図記号の使い方を身に付け、観察やフィールドワークの結果を地図に表すことができる。また、観察やアンケートなどの調査した結果をイラストマップなどのいろいろな地図、グ

ラフに表し、工夫してまとめ発表することができる。【資料活用の技能】

- (4) 地図における等高線や縮図，地図記号を理解して読図の知識を身に付けることができる。また読図やフィールドワーク・観察などの調査活動により，身近な地域における基本的知識を習得する。市町村規模における調査の基本的方法を習得する。【社会的事象についての知識・理解】

## 7 単元の評価規準

社会的事象 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
・身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，とらえようとしている。	・身近な地域の地理的事象から課題を見だし，地域の調査を行う視点や方法を基に多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現している。	・身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表にまとめたりしている。	・身近な地域の調査について，地域的特色や地域課題とともに，身近な地域の調査を行う際の視点や方法，地理的なまとめ方や発表の方法を理解し，その知識を身に付けている。

## 8 単元（題材）の指導計画（全9時間）

次	時	過程	学 習 内 容	評 価				
				関	思	技	知	評価規準（評価方法）
一	1	課題の発見	単元末に解決すべき課題（パフォーマンス課題）及び評価規準について理解し，課題解決のための情報収集及び計画を立案する。	◎				・身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に対する関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。（行動観察・ワークシート）
二	2	情報の収集	安浦町にはどのような特色があるか調べる。		◎			・身近な地域の地理的事象から課題を見だし，地域の調査を行う視点や方法を基に多面的・多角的に考察し，公正に判断して，その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現している。（ワークシート・ノート）

	3		資料等を用いて、安浦町の情報を収集する。			◎	・身近な地域の調査について、地域的特色や地域課題とともに、身近な地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。(行動観察・ワークシート・ノート)
	4		野外観察・聞き取り調査を実施し、より正確な情報を収集する。			◎	・身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。(行動観察・ワークシート・ノート)
	5		資料を調べて調査を深める。			◎	・身近な地域の調査について、地域的特色や地域課題とともに、身近な地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。(ワークシート・ノート)
	6 (本時)	整理・分析	企画書を作成する。			◎	・収集した資料等から、身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関する有用な情報を適切に選択し、図表にまとめている。(ワークシート・ノート)
	7		発表会をして地域の将来像について考える。			◎	・身近な地域の地理的事象から課題を見だし、地域の調査を行う視点や方法を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現している。(行動観察・ワークシート・ノート)

8	まとめ・創造・表現	企画書をブラッシュアップする。	◎		・身近な地域の地理的事象から課題を見だし、地域の調査を行う視点や方法を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現している。(行動観察・ワークシート・ノートなど)
9		企画書をブラッシュアップしたことをもとに地域のよさをまとめる。	○	◎	・身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。(行動観察・ワークシート) ・身近な地域の地理的事象から課題を見だし、地域の調査を行う視点や方法を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現している。(ワークシート・ノート)

## 9 本時の学習

### (1) 本時の目標

地域について調査したことを基に、有用な情報を適切に選択し、図表にまとめる等して、安浦町をより魅力的な地域にするために必要な取組を立案する。

### (2) 安浦中学校区小中一貫教育の研究テーマにかかわって

○主体的・対話的に学びながら、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりの工夫について「学び合い」の手法を取り入れることで、生徒同士の自発的な対話を促進し、お互いに意見を補完しながら探究する学習を進めさせる。

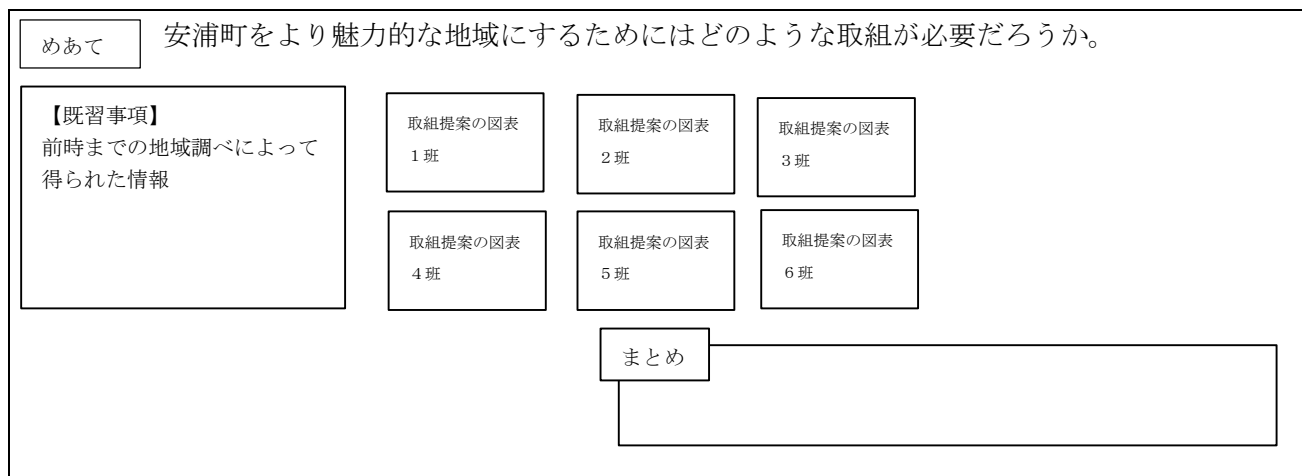
### (3) 準備物

教科書・資料集・ノート・用語辞書・ワークシート

(4) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点	評価
<p><b>個人思考</b></p> <p>1 前時を振り返り、想起する。</p> <p><b>個人思考・ペア</b></p> <p>2 学習問題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的に、安浦町の人口はどうなっていくかについて予想する。</li> </ul> <p>「安浦町では、今後若者が減り、高齢者が増えるだろう。」</p> <p>「少子高齢化が進むと、町としての機能を維持できなくなるかもしれない。」</p> <p>「若者が住みたくなる町にするために、魅力ある地域にしていかなければ。」</p> <p>「高齢者にとって住みやすい町にすることも必要だと思う。若者のことだけ考えていてはダメだ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確認する。</li> </ul>	<p>○本単元の2次までの教科書やノートなどを使い、ワークシートに記入させる。</p> <p>○立地条件や規模が安浦町と近い市町の人口推移のグラフを提示し、参考にさせる。</p> <p>○町内の小学校数が減少し続けていることを想起させ、若年層の減少が著しいことに気付かせる。</p>	
<p>安浦町をより魅力的な地域にするためには、どのような取組が必要だろうか。</p>		
<p>3 課題解決の見通しをもつ。 (課題解決に向けて、まとめ方を理解する。)</p> <p><b>個人思考・グループ学習</b></p> <p>4 安浦町をより魅力的な地域にするために必要な取組について、個人の考えをもつ。</p> <p>5 個人で考えた取組案を、班で交流し、さらに他の班とも交流する。</p> <p>6 他の班との交流で得た意見を自班に持ち帰り、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組案が単なる思いつきにならないよう、本時まで調査して得られた事実を根拠に考えさせる。</li> <li>・視覚的に理解しやすくするために、資料等から読みとった情報を図表にまとめさせる。</li> <li>・発表する際は、結論先行で話したり、根拠を明確にしたりする等、説得力を高める工夫をさせる。</li> </ul> <p>「私は、安浦町をより魅力的な地域にするために、○○という取組をすればよいと考えます。なぜなら、調査した結果、安浦町には□□という課題があることが分かったからです。この課題を解決するためには、△△することが必要です。」</p>	
<p><b>【期待される生徒のまとめ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安浦町をより魅力的な地域にするためには、高齢者に優しい町づくりをすることが必要だと思う。なぜなら、安浦町について調査した結果、町の課題として、高齢化が進んでいることが分かったからだ。現状のままでは、住みにくくなった高齢者が安浦町から離れ、さらに人口減少が加速する恐れがある。</li> <li>例えば、遠くまで歩けない高齢者が買い物に困らないよう、商店街の近くに駐車場を増やしたり、バスの運行を増やしたりすればよいと考える。</li> </ul>		
<p>7 本時を振り返り、次時につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時では各班でまとめた取組案を全体で発表し、地域の将来像について考えることを伝える。</li> </ul>	<p><b>【社会的な思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。(ワークシート、ノート)</li> </ul>

## 10 板書計画



## 11 検証とその結果

### 【検証方法】

以下の方法によって、指導改善により生徒に課題を解決するために必要な力がついたかどうかを検証する。

○学習後、アンケートを実施し、授業前のアンケートと比較して肯定的な変容と分析をする。

- ①社会科は好きですか？
- ②地理と歴史ではどちらが好きですか？
- ③「安浦町」は好きですか？
- ④「安浦町」とはと聞かれて何と答えますか。
- ⑤「安浦町」について知っていることを書いてください。
- ⑥個人で考えるより、ペアやグループで話し合いをして考えるほうが学習しやすいと思いますか。
- ⑦根拠を示しながら、相手に伝えることができましたか。
- ⑧自分の意見をうまくまとめることができますか。
- ⑨自分の思いや資料をもとに説明することは、得意ですか。
- ⑩他の人の意見を聞いて、自分の学びになっていますか。
- ⑪感想

○ワークシートの記述を分析する。

### 検証結果

事前事後のアンケート結果を比較したところ、③の解答率が、28.5%→80%、⑤の質問に3つ以上答えた生徒が、8.3%→69.3%、⑧22.8%→68.5%、⑨13.8%→62.8%と、複数の項目で改善が見られた。

本単元の学習で育成を目指す資質・能力は、次の2つであった。

1つ目は、「思考力・判断力・表現力」である。資料活用にかかわっては、複数の資料を比較させたり関連させたりして、自分の考えを構築させた。根拠を示しながら他者に納得させることができるように論理的に話したり、書いたりする指導を行うとともに他者の意見に傾聴させ、コミュニケーションを通して考えを深め他者と協働する学習を進めた。その際、事実や数値として客観的に取り出すことができる年表やグラフ等の情報と、その情報を基に自分で考えたことを分けさせながら、考察を進める態度を身に付けさせるようにした。その結果、学習の前と後のアンケートや、生徒のワークシートの分析により、改善がみられた。単元の学習前は、聞かれたことに対して単語でしか答えられなかった生徒が、学習

後は、「安浦町の課題と課題解決のために何が必要か説明しなさい。」という問に対して、68.5%の生徒が安浦町の課題の解決策を見いだすことができるようになった。これらのことから、思考力・判断力・表現力が高まったと捉えている。

2つ目は、「学びに向かう力」である。単元の学習前は、「安浦町について知っていることは何か」という問いに対し、単語でしか答えられない生徒が多かった。しかし、生まれ育った町である安浦町を、地理的な見方・考え方をを用いて見つめ直していく本単元の学習を通して、生徒は主体的に学ぶことができるようになった。これは、事後アンケートの感想で、「もっと安浦のことを調べてみたい」「安浦町はなぜカキが有名なのか知ることができてよかった」といった記述が多く見られたことから分かる。

以上のことから、本単元の学習を通して、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を育成することができたと言える。